

令和5年度岐阜県献血推進協議会  
議事要旨

- 1 日時 令和6年2月21日(水) 13:30~15:00
- 2 場所 岐阜県庁 2003会議室
- 3 出席者

所属会名	役職名	氏名
岐阜県医師会	会長	伊在井 みどり
岐阜県病院協会	専務理事事務局長	澤井 和子
岐阜県薬剤師会	会長	日比野 靖
岐阜県高等学校長協会	副会長	小野 悟
岐阜県高等学校PTA連合会	監事	山田 亨治
岐阜新聞社	統合編集局報道本部 報道部 NIE 担当	土屋 健一
岐阜大学医学部附属病院	輸血部副部長	中村 信彦
一般社団法人岐阜県経営者協会	事務局長	坂 賢司
日本労働組合総連合会岐阜県連合会	副事務局長	堀 武彦
ライオンズクラブ国際協会 334-B 地区	年次大会実行委員長	黒肱 功藏
岐阜市赤十字奉仕団	委員長	白木 美悠紀
大垣市赤十字奉仕団	委員長	松下 美由紀

【事務局】

所属	役職	氏名
岐阜県健康福祉部	部長	丹藤 昌治
岐阜県健康福祉部薬務水道課	課長	居波 慶春
	献血運動推進監	河村 正典
	課長補佐兼献血運動推進係長	柴田 裕一
	技術主査	林 小夏
	主任	山辺 有紗
岐阜県教育委員会体育健康課	課長補佐兼学校保健係長	池田 勉

【関係機関】

所属	役職	氏名
岐阜県赤十字血液センター	所長	高橋 健
	事業部長	岩崎 秀一
	総務課長	桐山 基次
	献血推進課長	野村 雅之
	推進一係長	岡部 裕晃
	推進二係長	大野 茂
	主事	太田 貴文
	主事	眞野 祥吾
	献血推進課職員	佐伯 俊也
岐阜市保健所	主任	西川 智子
岐阜保健所	主任技師	瀬尾 愛加
〃 本巣山県センター	技術主査	豊田 由起子
西濃保健所	主任技師	林 祥昌
関保健所郡上センター	生活衛生係長	山田 典子
可茂保健所	技術主査	井原 尚美
東濃保健所	主任技師	大岩 正博
恵那保健所	主任技師	竹中 弘明
飛騨保健所	主任技師	勝野 耀介
〃 下呂センター	主事	東田 聖美

4 次第

(1) あいさつ

(2) 議題

ア 令和5年度献血推進等事業の概要について

イ 令和5年度献血及び供給の実績について

ウ 令和6年度岐阜県献血推進計画（案）及び

「未来へつなぐ献血プロジェクトぎふ」の取り組みについて

(3) その他

令和5年度岐阜県合同輸血療法会員会活動について

(4) 意見交換

5 議事要旨

冒頭、岐阜県健康福祉部丹藤部長からあいさつを行った。

岐阜県献血推進協議会会長の岐阜県医師会伊在井会長からあいさつを行った。

岐阜県献血推進協議会会則第7条第1項の規定に基づき、伊在井会長が議長となり議

事を進行した。

(1) 議題

ア 令和5年度献血推進等事業の概要について

イ 令和5年度献血及び供給の実績について

事務局河村推進監から資料に基づき説明を行った。

(伊在井会長)

ただ今の説明について、ご意見ご質問はあるか。

若年層献血者数の増加は岐阜献血ルームアクティブGができたことによるものか。

(血液センター 高橋所長)

アクティブGルームに高校生が複数人で来所してくれるケースが増えている。そのため、高校生を中心に10代は増えているが20～30代は伸び悩んでいる。

アクティブGルームの来所者は、土日は多いが、平日は少ないことが課題。岐阜駅アクティブGに献血ルームがあること引き続き広報し、利用者数を増やしていきたい。

(日比野会員 (県薬剤師会))

令和3年9月は献血者数が突出しているが、他の月は献血者数が少ないのは、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響によるものか。

(血液センター 野村課長)

令和3年9月は7、8月の献血者数が少ないことを報道いただいたことにより、集中して献血者数が増加したと思われる。

(日比野会員 (県薬剤師会))

報道により献血者数を増やすことができるのであれば、岐阜新聞等メディアを活用すると良いのではないかと。来年度は献血大会が開催されるため大会に向けて献血者数の増加に協力できると良いと思われる。

(血液センター 高橋所長)

献血について、メディアに取り上げていただけることで、献血者数の増加に効果があると思われる。

(土屋会員 (岐阜新聞))

プレスリリースでいただいたものについて、幅広く報道している。

昨年度の会議でも発言させていただいたが、イベントの開催結果報告以外に、事前の取り組み等が効果的と思われる。

(血液センター 野村課長)

今年度はプレスリリースのほか、SNS による若者向けの発信及びラブラッド（メール）会員に発信することで献血に協力いただいた。

昨年末は全国的に献血者数が少なく厳しい状況であったが、このことを多くの報道機関に取り上げていただいたことで献血数がかなり増加した。今後も継続して報道で取り上げていただけると幸い。

(血液センター 高橋所長)

イベントについて、現状は事後に報告することが多い。献血者数が少ないことについて報道いただけることが多いが、他イベント等良い企画があれば事前に報道に投げ込むことを検討していきたい。

(伊在井会長)

その他、ご意見ないか。

(意見なし)

ウ 令和6年度岐阜県献血推進計画（案）及び「未来へつなぐ献血プロジェクトぎふ」の取り組みについて

事務局河村推進監から資料に基づき説明を行った。

(伊在井会長)

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はないか。

学生ボランティアについて、どのような取り組みをされているか。

(薬務水道課 河村推進監)

毎月マーサ21で行う献血の呼びかけや、学校で献血を行う際の学生の呼びかけ活動、ショッピングモールにおけるピールオフイベントへの運営等においても学生ボランティアに活躍いただいている。

(伊在井会長)

大学生、高校生の学生ボランティアが様々な場所で活躍いただいていることがよく分かった。

(小野会員 (高等学校長協会))

自身は大垣北高校の校長を務めており、7月の懇談会時期に献血バスを配車してもらい保護者や生徒に献血に協力いただくことや、9月の文化祭において献血啓発活動を行う等の活動を実施した。

生徒数の少ない高校が岐阜県には多く、このような学校で献血バスを配車しても集まる採血量が少ないと思われるが、生徒に対して献血を習慣化するために、啓発事業として献血バスを配車してもらえると、学校として協力しやすい。

(血液センター 高橋所長)

採血量の見込みが少ない学校について、献血バスの配車が困難となる場合が多いが、学校と相談のうえ可能な範囲で献血バスを配車していきたいと考える。

あわせて、岐阜市近隣の高校であれば、アクティブGルームに来てもらうなど、様々な場所で献血に協力してもらえるとありがたい。

(伊在井会長)

献血バスを配車できない高校に啓発資材などは配布しているか。

(血液センター 高橋所長)

毎年、新高校2年生に献血啓発パンフレットを配布している。

高校生により関心を持ってもらえるような取り込みを、高校の先生と協力して取り組んでいきたいと考えている。

(坂会員 (県経営者協会))

先日、県内体育館でバスケの試合があり観戦した。会場にはキッチンカーが出店されており、若者を中心に人が集まっていた。体育館等で開催する、若者が集まるようなスポーツイベントにおいて、献血バスの配車や、スポーツチームのSNSで献血について発信の協力等をしてもらうのはいかがか。

(血液センター 高橋所長)

有意義なご提案ありがとうございます。FC岐阜では、年2回、試合の日に合わせて献血バスを配車し会場限定の記念品を配布するなど、多くの方に献血に協力してもらっている。

(堀会員 (労働組合岐阜県連合会))

企業における献血の受け入れについて、社会貢献の意識も高まっているところなので、企業に対する働きかけは協力したい。

(血液センター 高橋所長)

多くの企業の皆様に献血を支えていただいている。労働組合から献血協力を呼び掛けていただいている。

(黒肱会員 (ライオンズクラブ))

各ライオンズクラブにおいて、地域の献血活動への参加をしているが、献血大会に向けてもご協力できることがあれば積極的にしていきたいと考えている。

(血液センター 高橋所長)

資料にあるとおり、県内すべてのライオンズクラブ様にご協力いただいております。今後も連携していければと考えているため、よろしくお願いいたします。

(澤井副会長代理 (県病院協会))

病院では、献血でいただいた血液で患者様の命を救っており、なるべく過不足なく使用できるよう取り組んでいる。引き続き献血へのご協力をお願いしたい。

(日比野会員 (県薬剤師会))

400mL 献血と 200mL 献血の考え方について、教えていただきたい。

(血液センター 高橋所長)

医療機関からの要請率は、400mL 献血が約 99%となっているが、厚労省の基本方針でも初回献血は 200mL の許容を推奨しており、若年層献血を推進していくために岐阜県内でも 200mL 献血が増えている。また、各医療機関の輸血部長等にもご説明し、200mL 献血の意義についてご理解いただいているところ。

(中村会員 (岐阜大学病院))

事業報告の中で、若年層に対して、医療従事者や患者さんの声を届けるという取り組みは、極めて重要であると感じた。献血者と患者さん・医療従事者には距離があり、献血した血液でどのように患者さんが救われていることを知る機会の提供が重要である。

また、がん領域では、患者さん自身が治療開発に参画する取り組みが進んでいる。献血によって命を救われた方の声を献血者へ届けられるとより良いと思う。

(山田会員 (高等学校 PTA 連合会))

高校献血について、10 代の若者が献血した場合に、身体的に起こりうる症状などエビデンスを教えてほしい。また、医療関係者との交流など、進路選択を含めた、勉強をする機会としての献血を取り入れたら良いかと思うが、相談窓口はどちらか。

(血液センター 高橋所長)

献血のリスクについては、若者ほど VVR (血管迷走神経反応) の発症率が少しだけ高い。その分スタッフも注意してサポートしている。学校では、400mL 献血の身体への負担や問診に HIV のリスクについての項目があるなど、不安を感じていらっしゃるかもしれないが、校長の先生方が協力的であり、養護の先生も受け入れてくださっている。企画などの相談窓口としては、血液センターで問題ない。

(白木会員 (岐阜市赤十字奉仕団))

団員も高齢化しており、なかなか献血には協力できないが、呼びかけで一生懸命お願いしている。献血大会へも多くの団員が参加できると思う。

(松下会員 (大垣市赤十字奉仕団))

若者は日常生活で頻繁にスマホを使っているので、SNS で情報発信していくのは良い。また、女性はライフステージによって献血できないこともあるので、特に男性が若いうちから頑張っていってほしい。

(伊在井会長)

多くのご意見をいただき感謝申し上げます。

令和6年度岐阜県献血推進計画については、事務局案で進めさせていただく。

(2) その他

令和5年度岐阜県合同輸血療法会員会活動について

事務局河村推進監から資料に基づき説明を行った。

(3) 意見交換

(伊在井会長)

保健所の方、ご意見いかがか。

(岐阜市保健所 西川主任)

献血の推進として、市役所でも庁舎献血を実施しているが、献血者数がなかなか増えていかない。こういった会を通じて、情報をいただけるとありがたいと思う。

(岐阜保健所 瀬尾主任技師)

高校訪問をして献血のお願いをしているが、若者に響くような工夫が難しいと感じている。スマホやインフルエンサーを活用した事業ができれば効果的であると感じている。

(恵那保健所 竹中主任技師)

恵那の総庁で庁舎献血を実施し、夏は20名程度だったのが、1月の震災後の実施の際には30名を超える方にご協力をいただいた。震災後まだ1か月強なので、こういったモチベーションを持続化していけると今後の献血者の増加につながると思う。

(血液センター 高橋所長)

未来へつなぐ献血プロジェクトぎふの取組みや岐阜献血ルームアクティブGの開所、またさらに来年度の献血大会で献血運動を盛り上げていくことで、今後の献血者数の増加につなげていき、次年度も良いご報告をしていきたい。

(伊在井会長)

献血大会に向けて私たちも一丸となって献血推進に取り組んでいきたい。

以上で本日の議題は全て終了とし、円滑な議事進行への協力に感謝申し上げる。